



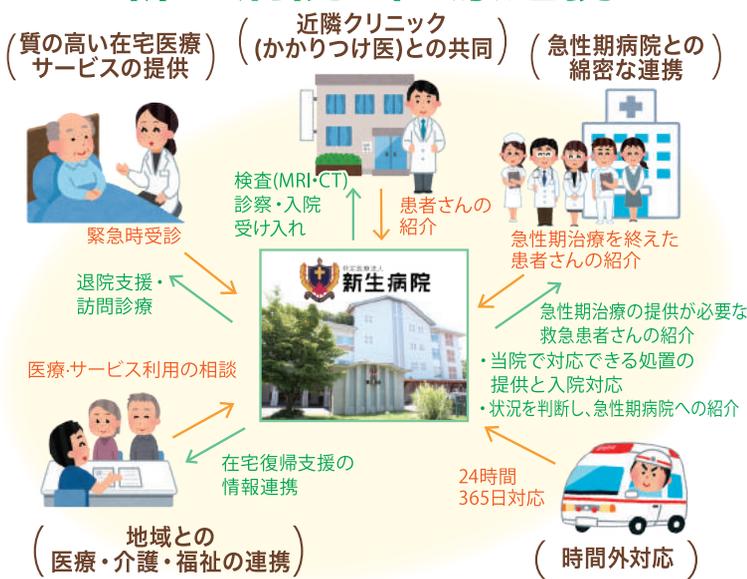
新生だより



地域の皆さんに向けて新生病院グループの「いま」を発信しています。

2020年10月17日発行 発行人:特定医療法人新生病院 理事長 渋澤 一郎

新生病院の医療連携



このような方を中心に治療の提供・入院の受け入れを行っています。

- 急性期病院での治療を終え、在宅復帰への集中的なリハビリテーションを必要とする患者さん
- ご自宅で療養生活を送る患者さんへの訪問診療、患者さんを支える家族のためのレスパイト入院
- 先進的医療を除く、地域の医療機関・クリニックから紹介を受けた患者さんの受け入れ

詳しい情報は
当院ホームページで
ご紹介しています



こちらから
アクセス
できます

在宅療養支援病院とは

患者さんが住みなれた地域で安心して療養生活が送れるよう24時間往診が可能な体制、または訪問看護ステーションとの連携により24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保し、緊急時に在宅療養生活を送る患者さんが入院できるなど、必要に応じた医療・看護を提供できる病院のことです。

新生病院は、急激な社会環境の変化に対応し、医療機関の役割分担を意識しながら、患者さん一人ひとりの相談に応え、退院後の生活まで含めた治療・ケアの調整を行う役割を担っています。時代の流れに応じて当院が提供する医療の内容や方向性を変えて行きながら、地域の皆様の健康と生活を支えるということに力点を置いた、本院の進む方向性についてのご理解・ご協力をお願い申し上げます。



新生病院 院長
大生 定義
(おぶさだよし)

「地域の皆さんの健康と暮らしを支える」
「在宅療養支援病院」としての役割と連携

地域の皆さんに、質の高い医療を迅速に、適切なタイミングで提供するため、当院の機能を生かした医療の提供と、他の医療機関との医療連携を大切にしています。

新生病院が果たすべき役割

厚生労働省は、人口推移の変化を受けて医療機関の役割分担を進めています。地域の医療状況に際し、各医療機関の特徴を生かした機能を十分に発揮できるように、自治体を中心に医療分担の体制づくりに取り組んでいます。当院では病状が安定し、

患者さん・ご家族の気持ちに真摯に向き合う医療の提供を目指して

在宅復帰に向けてリハビリ治療を行う回復期医療の提供、継続的な治療を必要とする慢性期医療の提供、ご自宅で療養生活を送る方への在宅医療の提供を中心とし、高度な医療を必要とする急性性の高い患者さんへ、急性期医療を提供する連携医療機関へご紹介しています。

回復期・慢性期・在宅医療を核として診療を行う当院には、一人ひとりの相談に応え、退院後の生活まで含めた治療をコーディネート(調整)する特徴があります。退院後の暮らしを支える医療までを全人的に捉え、ひとつの医療機関のみで完結するのではなく、地域全体の医療機関を含めて治療の提案を行い、患者さんの状態に合った適切な治療を提供していきます。

WEB新生病院祭

～つながる～開催! 10/23(金) 予定



<オープニング> - 院長メッセージほか -

1. 特別プログラム オンライン座談会「須高の地域医療を考える」(須高医師会会長・長野県立信州医療センター院長・轟病院院長・新生病院院長)
2. 「つながる」メッセージ/小布施町町長・小布施町社会福祉協議会・小布施荘
3. 「運動習慣について」内科統括医長/竹花医師
4. 「お家でエクササイズ」健康管理課/健康運動指導士
5. みんなでパブリカ踊ってみた/メディカルリハビリテーション課ほか
6. 「いつまでもこの町で健やかに暮らすために」/在宅支援課・パウル会訪問看護ステーション希望

*内容は変更となる場合があります

パブリカ踊ります♪



今年新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年病院で開催している「新生病院祭」を中止させていただきます。しかし、そのような中でも新生病院グループとして地域の方々に何か出来ることはないかと模索し、インターネットを使った動画配信スタイルでの病院祭を開催します!

リハビリ外来をご利用下さい



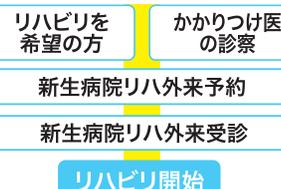
- 最近体力の衰えを感じ、専門的なリハビリをやりたい
- かかりつけのお医者さんからリハビリを勧められた…など

専門的なリハビリを新生病院で行うことができ、持病の診察や投薬は、かかりつけのクリニックさんでの治療を継続して頂けます。患者さんご本人・かかりつけ医と当院のリハビリ課が連携し、患者さんの健康管理を多角的にサポートします。

こんな症状でお困りの方ぜひご相談ください

- 最近つまづきが多い、疲れやすい
- 運動機能を維持するための効果的な自主トレーニング方法が分からない
- 痛みがあって日常生活に支障がある
- 脳血管疾患の既往があり、うまくしゃべることができない
- 介護保険の利用を目的としたリハビリフォローを受けたい
- 他院を退院後、地元でリハビリを受けたい

《リハビリ外来ご利用の流れ》



【お問合せ・リハビリ外来のご予約】
☎026-214-6109 (担当/中島)
受付時間/月～金曜 8:30～17:30

10月から常勤医師が着任しましたのでご紹介します



総合診療科医長
池澤 裕弘
(いけざわ ゆうこう)

帰国後は母校において総合診療部の立ち上げから、県内の地域医療の充実を目指した若手医師の養成プログラムの設立と運営にまで携わってきました。この12年間は横浜市にあるクリニックにおいて、看護師、薬剤師、栄養士、介護士らとチームを作り、老人ホームやグループホームの入居者やクリニック周辺の高齢者の在宅医療を、一般外来診療と併せて行ってきました。

■ 専門領域

「専門領域は何でしょうか？」と聞かれると、いつもうまく説明ができませんが、一言で言えば“家庭医療”や“総合診療”がそれに当たります。そう言っても十分に理解が得られない場合には、「とりあえず何でも相談できる医師です。」と答えるようにしています。

現在の日本は、ご存知のように高齢化が急激に進んでいます。こうした社会に対応するためには、もはやこれまでのような退院したら終わりというような治療完結型ではなく、予防や介護とも垣根のない新しい医療が求められているのではないのでしょうか。そもそも病気は本人すら気づかないところから始まり、急性期、回復期、慢性期と、その後の繰り返しを経て、在宅での療養までヒトの長い人生に関わってきます。私は、その時期その時期において、患者さんから常に頼りにされる医療者になることを目指して研鑽を積んできました。

■ これまでの経歴

医学部を卒業後した時点で初めに目指したものは、幅広く何でも診ることのできる医療者でした。そこでまずは全身を対象とした小児科で3年間研修を積み、次に当時はまだ数少なかった全科ローテーション研修を2年間、次いで救急医療、総合内科、そして在宅医療へと自身の診療範囲を広げていきました。医師として丁度10年が過ぎた時点で、新たなフィールドを求めてアメリカに渡り、臨床全般と医学教育、大学院での研究手法を学びました。

■ 医療人として大切にしていること

患者さんと家族の“思い”を的確に受け止め“尊重”し寄り添っていきたい、少しずつでも信頼を得ながら、“安心”に繋がる医療を展開していきたいと願っています。

常に身近にいて、ちょっとした相談にも気軽に応じられるように、周りのスタッフを信頼して、地域の資源をうまく活用・連携しながら、“安心”を提供できるチーム作りを目指していく。個々の患者さんが安心して暮らしていける地域作りにも積極的に参画していきたい。そのためにも“在宅医療”にはとりわけこだわっていきたくと思っています。

患者さんは往々にして、身体的な問題に限らず、病を抱えた心の悩みや医療サービスを受ける上での社会的な悩みを抱えています。こうした悩みを十分に汲み取り、一人ひとりの患者さんが納得できる医療を提供する。そして患者さん自身が、その人らしくありのままの姿で、いつまでも生き生きと地域で暮らしていける手助けをしていきたいと考えています。

■ 地域の皆さんへ

新生病院は地域において、他の施設やスタッフと精緻に連携を取りながら、回復期から慢性期、住み慣れた地域での在宅医療を担っていることを知りました。わたしも地域での役割を認識して、スタッフとの協力のもと、提供できるサービスの可能性を不断に追い求めていきたいと願っています。

長野県には、10年来休みのたびに家族とよく訪れていました。こちらに移り住むことは、かねてからの私たち家族の念願でした。今回、ご縁があってこちらで働くことが出来ることを心より嬉しく思っています。今後は日々、素晴らしい景色と清々しい空気、地域の方々とさまざまな交流を楽しみに、診療に励んでいこうと思っています。今後ともどうぞよろしく願います。

健康知得

けんこうしとく コラム



必要以上のお薬を服用していませんか？ ポリファーマシー(多剤服用)

高齢化に伴う医療課題のひとつ「ポリファーマシー」という言葉を聞いたことがありますか？ポリ(たくさん)+ファーマシー(調剤)からなる言葉で、多くの種類の薬を飲んでいることを表しています。60歳頃から服用する薬剤の種類は増加傾向になり、多剤服用が原因の健康問題も発生しています。「ポリファーマシー」について正しく理解し、服用しているお薬の定期的なチェックをしましょう。

Q.どんな状況をポリファーマシーっていうの？

一般的にポリファーマシーとは、臨床的に必要以上のお薬が投与されている、あるいは不必要なお薬が処方されている状態を言います。併用するお薬が何剤以上でポリファーマシーであるという明確な定義はありませんが、おおそ4~6剤以上を示すことが多いです。ある調査では、65歳以上では約4割、80歳以上では6割の患者さんが「7種類以上」内服していると報告されています。

Q.どのような問題が起こりますか？

ポリファーマシーの問題点として①薬物有害事象(薬物との因果関係がはっきりしないものを含めた、好ましくない症状、病気、副作用など)の発症頻度の増加②残薬の増加③アドヒアランス(正しい用法用量で服用する事)の低下④QOL(生活の質)の低下⑤薬剤費の負担増加などが挙げられます。特に高齢者の場合、加齢により肝臓や腎臓の代謝機能が落ちていることから、薬の最高血中濃度の増大や消失時間の延長など、特に注意が必要です。

Q.ポリファーマシー予防のポイント

お薬手帳は、病院や薬局ごとに分けず「1冊」にまとめましょう!
お薬手帳はあなたの大切な薬の情報です。医療情報としても服用薬・症状の把握にとっても役立ちます。また、災害時など緊急時の備えとしても有用です。

薬剤師が処方や服薬状況を確認できるので、医療機関を受診の際は必ずお持ちください。



「ポリファーマシー=お薬の数を減らす」事ではありません!

「多すぎる薬を減らす」ことは大切ですが、「薬を使わなくていい」ということではありません。病気によってはどうしても薬の数が多くなってしまうこともあります。処方された薬はきちんと使用することが大切です。絶対に自己判断で中止してはいけません。

かかりつけ医・かかりつけ薬局をつくりましょう

お薬の数と量、または体調の変化について、かかりつけ医・かかりつけ薬局に相談をしてみましょう。

新生病院 薬局課

— 特定医療法人 新生病院 —

— 基本理念 —

わたしたちはキリストの愛と精神にもとづき医療を通して全ての人々に仕えます。

- 1.キリストの教えと行いに学び、「全人医療」を実践します。
- 2.全ての人々に、人や人種による差別なく、小布施という「地域」の中から「世界中」の人々に。
- 3.キリストの精神である「仕える」ことによって「新たな生」が始まります。

— 基本方針 —

- 1.命の尊厳 私たちは命の尊厳を大切に医療に取り組めます。
- 2.連携 私たちは、小布施町を中心とした「地域」の中で、医療・福祉・保健・介護・行政を担う各機関との連携を通して、命の尊厳と質を患者さんとともに追求できる医療体制の構築に取り組みます。
- 3.人財の育成 私たちは、業務の遂行を通して、社会に貢献することを喜びとする人財の育成に努めます。
- 4.健全経営体質 私たちは、良質な医療を安定・継続して提供できるよう、健全な経営の構築に努めます。

— 特定非営利活動法人 パウル会 —

— 基本理念 —

「奉仕」「感謝」「信頼」

わたしたちは、ミスパウルを象徴とするカナダミッションの志に習い、奉仕の精神をもって地域福祉に貢献します。

わたしたちは、命の大切さを尊び、愛情と感謝の心を持ち続けます。

わたしたちは、自らの仕事に誇りを持ち、全ての人に誠実で丁寧に向き合い、信頼関係を深めます。